

図書館だより

発行：千葉市図書館 <http://www.library.city.chiba.jp>

主な内容 [2・3面] 特集「冬に読みたいあったか本」
[4面] 「冬のおはなし会」・「こどもかるたあそび」のご案内

- 千葉市中央図書館**
千葉市中央区弁天3-7-7 ☎043-287-3980
- みやこ図書館 (233-8333) 白旗分館 (264-8566)
 - 花見川図書館 (250-2851) 花見川団地分館 (250-5111)
 - 稲毛図書館 (254-1845) 西都賀分館 (254-8681)
 - 若葉図書館 (237-9361) 泉分館 (228-2982)
 - 緑図書館 (293-5080) あすみが丘分館 (295-0200)
 - 美浜図書館 (277-3003) 土気図書室 (294-1666)
 - 移動図書館 (287-3983) 打瀬分館 (272-4646)

30周年を迎えた 千葉市文庫連絡協議会

さらなる飛躍に期待

一人でも多くの子どもたちによりよい本を、という熱意から今日まで活動を続けてこられた「千葉市文庫連絡協議会」。その千葉市文庫連絡協議会が、今年発足30周年を迎えられました。常に子どもと向き合い、優れた本を届けるために勉強会や講演会を行い、本のリストや機関紙「ふみくら」を発行するなど努力を続けてこられました。



「子ども読書まつり」での活動の様子

このたび、その長年の功績に対し、千葉市社会教育功労者(団体)として、市教育委員会から感謝状が贈呈されました。

文庫とは、地域の施設や家庭で、子どもたちに本の貸出しやおはなし会などの催しを行う、子どものための小さな『としよかん』です。

千葉市内でも、図書館の機能がまだ十分ではなかった1970年代から、子どもたちにより本を届けようとの思いの人々によって、文庫の活動が行われました。千葉市文庫連絡協議会は、1978年に10文庫により発足し、現在は21文庫が加盟されています。

千葉市図書館では、団体貸出制度(文庫・学校等への児童書の長期貸出)などを実施し、連携を図ってきました。

一方、千葉市文庫連絡協議会からは、「子ども読書まつり」や、市内の学校や地域で読書活動を行っている団体を対象に、研修や情報交換・交流の場として開催している「地域文庫等研修会」などの図書館の事業にご協力をいただいています。

これからも図書館とともに、子どもたちの本との出会いを広げるため、活動のさらなる飛躍を期待します。

千葉市文庫連絡協議会のあゆみ	
1978	千葉市内の10文庫により、文庫連絡協議会発足
1979	団体貸出制度の利用開始 機関紙『ふみくら』創刊
1983	『文庫連絡会でえらんだ50冊の絵本』発行
1985	『幼年童話50選』発行
1987	『小学校中級むけ50選』発行
1989	『絵本とおはなし200選』発行
1998	20周年記念事業として講演会(講師 中川李枝子氏)、文庫まつりを開催
1999	『親子でたのしむ絵本100冊』発行 『もう一回よんで!子どもたちにこう言われるとどううれしい!』発行
2000	千葉市文庫連絡協議会会長が千葉市図書館協議会委員に就任(現在に至る)
2002	子どもの読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰を受賞
2004	図書館事業「子ども読書まつり」、「地域文庫等研修会」への協力開始
2008	30周年記念事業として講演会(講師 富安陽子氏)開催 『ふみくら 30YEARS MEMORIAL』発行

※下線のある資料は、図書館で所蔵しています。

感謝状をいただいて

千葉市文庫連絡協議会は、今年30周年の節目の年を迎えました。このたび、千葉市社会教育功労者(団体)として、感謝状をいただきました。

現在市内の21文庫が参加し、講演会や勉強会の開催や、県内の他市の文庫連絡会との交流も行っています。また、最近は学校などから、おはなし会の依頼を受けることも多くなってきました。

私たちは、子どもたちが一生の宝物となるような本と出会ってほしいと願っています。今後も市内のどこに住んでいる子どもでも、等しくそのような機会が得られるよう、子どもたちの身近な学校や公共図書館とも協力して、地道な活動を続けていきたいと思っています。近くの文庫にお立ち寄りください。

千葉市文庫連絡協議会 会長 中山幸子

特集 「冬に読みたいあったか本」

今年も早いもので、残りあとわずかとなりました。

これから冬本番を迎えますが、
寒い冬を乗り切るためにぴったりの、
心や体があたたまる本をご紹介します。



「空飛ぶ馬」

北村薫／著 東京創元社 1998
北村薫のデビュー作、女子大生と落語家のコンビが5つの謎を解き明かす長編連作ミステリーです。ミステリーといっても殺人などは起こらず、二人が解くのは日常生活に潜む小さな謎です。豊かでウィット効いた登場人物の語り口は、作中に登場する上等な紅茶のようにじんわりと胸にしみます。特に表題作「空飛ぶ馬」はクリスマスの心あたたまる物語で、今の時期読むのにオススメです。

「おじいさんの思い出」

トルーマン・カポーティ／著 文芸春秋 1988
カポーティが小説家としての初期に書いた短編で、長い間未発表のまま埋もれていたものです。「クリスマスの思い出」あるクリスマス」とともに短編三部作といわれています。三編とも純粋で素直なあなたがかが伝わってくる作品。「おじいさんの思い出」はおじいさんと離れて暮らすことになった少年の気持ちを描いたもので、村上春樹の訳が簡潔でわかりやすいです。

「西手くさくさの言葉」

寺山修司／著 文化出版局 1982
「自分たちしか通じない言葉をもつ恋人同士である。」この本の冒頭にてくる言葉です。全部で413の言葉が出てきます。演劇や文筆で足跡を残した寺山修司の著作の中から、生前に出版社が名言集として編集した本です。数多くの著作から、言葉が選ばれているのですが、小説やエッセイなどから、このように言葉が切り出せるのかと感心してしまいます。今まで出会った忘れられない詩や歌のように、心に響く言葉がここにあります。

「語りだすオズ」

松村由利子／著 本阿弥書店 2008
身近なものを題材としたさまざまな短歌について紹介したエッセイ集。「恋するクロゼット」「もの思うキッチン」「夢見る子供部屋」など女性ならではの視点から楽しい解説もついています。取り上げられている作品は、現在活躍中の中堅・若手歌人のものが多く、花鳥風月といった既成観念にとらわれることなく、身近な存在をのびのびと詠んでいます。日常生活のなかで、何気なく見ているものの中に、思わぬ発見をする、そのときの心の機微というものをよくとらえています。日々の営みで疲れたときに、ほっとできる一冊だと思います。

「一ノ矢土俵に賭けた人生」

ヒヤ小林／著 ダイヤモンド社 2008
異色のスポーツ・ヒューマン・ドキュメンタリーです。国立大学卒、現役最年長とマスコミに取り上げられた大相撲高砂部屋所属の元三段目力士、一ノ矢の土俵人生を描いています。初志を貫徹した一ノ矢には、同部屋の横綱・朝青龍も畏敬の念を持つといえます。人生の「勝ち組」「負け組」などというものを超越した男の生き様と、彼を見守る周囲の人々のあたたかさに共感を覚える人も多いでしょう。昨今、よい話題の少ない大相撲ですが、このような真摯な男たちの集団、という面もあるのです。

「日本の温泉が好きだ」

日本秘湯に入る会／編 岩波書店 2004
日本全国の温泉愛好者たちが選んだ名湯・秘湯が掲載されています。中には、コンビニの中にある温泉など、愛好者でなければ見落としてしまうような、素材な宿・変わった場所にある温泉が多数紹介されています。

「ピリッカラ唐辛子料理」

西川治／料理・写真・文 インフォレスト 2005
冬の寒い日に、体のあたたまる唐辛子料理はいかがですか？この本では、各国の唐辛子を使った料理が、肉・魚・麺など食材別に紹介されています。辛さのレベルが1〜4段階で表示されているので、辛い料理が苦手な方でも、お気に入りの料理が見つかるかもしれませんよ。

「コーヒーに憑かれた男たち」

嶋中芳／著 中央公論新社 2005
この本は、三人の喫茶店店主とその周りの人々の人生を綴ったものです。現在は、喫茶店と呼ぶ店が少なくなっていますが、そんな店が多かった、そうです。学生街の喫茶店の頃、いや、そのずっと前からコーヒーの味に五感を使い、情熱と執念を持ち、店にこだわりのコーヒーを出しつづけた人達の話です。著者は、出版社「柴田書店」で編集に携わっていた人です。専門出版社なので、少々マニアックといえそうですが、それだけでは、ありません。著者のコーヒーへの思い入れのほか、中に登場する人達を慈しんでやまない気持ちがとても伝わってきます。そして、すごい取材力に驚きます。読んだ後、おいしいコーヒーが飲みたくなります。

「マリー」

ジョン・グロウガン／著 早川書房 2006
グロウガン夫妻が子育ての練習のために飼ったラブラドル・レトリバーの「マリー」は愛すべきおバカな犬だった。マリーが巻き起こす珍騒動を客観的だが、あたたかく描いたノンフィクション作品です。ヤングアダルト版(2007年刊)もあります。

「こせつなともだち」

方軼華／作 村山知義／画 福音館書店 1987 ★児童向け
冬のある日、おなかをすかせたこうさきは、たべものを探しにかけ、かぶを二つ見つけました。ともだちもおなかをすかせているだろうと考えたこうさきは、一つを食べ、もう一つはともだちの家に届けました。ところが、ともだちも他のともだちのことを考え…。心のあたたかくなる絵本です。

「かあちゃんのこと」

あかね書房 1984 ★児童向け
わたしは、かあさんとおばあちゃんと三人暮らし。かあさんの働いている食堂でお手伝いをするとお金がもらえます。もらうと必ず半分だけあひんに、入れておきます。あひんとは、かあさんが食堂から持って来たものすごく大きいびんの事です…。火事に遭った家族の生活を綴った絵本。色彩豊かな絵や文の端々から、人の心のあたたかさが伝わってきます。

「飛ぶ教室」

岩波書店 1962 ★児童向け
舞台は12月のドイツの寄宿学校。クリスマスに向けてみんなで作った劇「飛ぶ教室」を練習する生徒と先生たちの、ハラハラドキドキして、最後には心あたたまる出来事に溢れた日々を描いた物語です。どこまでも子どもに真摯に向き合おうとする、作者の描く子どもの悲しみの描写や大人との信頼関係に胸を打たれます。

「自慢の鍋料理」

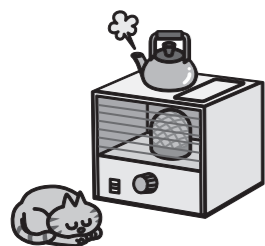
TEN／編 大泉書店 2002
寒い日に鍋料理の湯気に包まれると、心も体もあたたまります。この本を読むと子どもの頃の故郷の鍋や家族で囲む定番鍋などのおいしく食べるコツがわかります。アジアのおいしい鍋も紹介されています。

「さとうわき」

福音館書店 1998 ★児童向け
寒い日、雪遊びから帰ってきたら、さあ、ばばあちゃんと一緒にもちつきをしましょう。家にうすやきねがなくとも大丈夫。ばばあちゃん流もちつきは、すりこぎとボウルを使うんです。ごぞんじ「ばばあちゃん」シリーズ、冬の巻です。みんなで楽しく色々なもちを作っているうちに、寒さなんて忘れてしまうことわあいです。

「遊び図鑑」

奥成達／文 ながたはるみ／絵 福音館書店 1987 ★児童向け
子どもが外で遊ぶ時間が、少なくなっているといわれています。今年の冬は、この本で紹介されているいろいろな馬とび(かかし、灯台とび、長馬)や鬼ごっこ(しやがみ鬼、影ふみ、目かくし鬼、たか鬼)などをして、遊んでみましょう。



絵本やお話の世界をたのしもう! 「冬のおはなし会」



各図書館でパネルシアターや絵本の読み聞かせ、昔話などの素話を行います。
皆様のご来館をお待ちしています。(当日先着順)

12/20(土)中央図書館

3・4歳児とその保護者 11:00~11:30
5・6歳児とその保護者 14:30~15:00
小学生とその保護者 15:10~15:40
定員:各30人

中央区

12/20(土)みやこ図書館

3~6歳児とその保護者 10:00~10:30
小学生とその保護者 11:00~11:30
定員:各40人



12/17(水)みやこ図書館白旗分館

3歳児~小学生 15:30~16:00
定員:30人

花見川区

12/26(金)花見川図書館

4歳児~小学生とその保護者 15:30~16:00
定員:40人

12/24(水)花見川図書館花見川団地分館

3歳児~小学生とその保護者 15:30~16:00
定員:40人

12/19(金)稲毛図書館

3~6歳児 15:15~15:45
小学生 16:00~16:30
定員:各30人

稲毛区

12/20(土)若葉図書館

3・4歳児とその保護者 14:00~14:20
5歳児~小学校低学年とその保護者 14:45~15:15
定員:各30人

若葉区

12/20(土)若葉図書館泉分館

3歳児以上とその保護者 11:00~11:30
定員:30人

12/24(水)若葉図書館西都賀分館

3・4歳児とその保護者 15:00~15:20
5歳児~小学校低学年とその保護者 15:45~16:15
定員:各20人

12/19(金)緑図書館

2・3歳児とその保護者 11:00~11:30
4歳児以上とその保護者 15:30~16:00
小学生とその保護者 16:00~16:30
定員:各40人

緑区

12/17(水)緑図書館あすみが丘分館

3~6歳児とその保護者 15:00~15:30
小学生とその保護者 15:45~16:15
定員:各40人

12/20(土)緑図書館土気図書室

3歳児以上とその保護者 14:00~14:30
定員:30人
※会場:土気公民館集会室



12/6(土)美浜図書館

①3歳児以上とその保護者 10:30~11:00
②5歳児以上とその保護者 11:30~12:00
定員:①30組 ②50人
※会場:高洲子育てリラックス館2階 ひろば2
(美浜図書館となり)

12/25(木)美浜図書館打瀬分館

3歳児以上とその保護者 15:30~16:00
5歳児~小学生とその保護者 16:00~16:30
定員:各40人

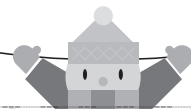
美浜区

1/29(木)美浜図書館

2・3歳児とその保護者 10:30~11:00
定員:15組
※会場:高洲子育てリラックス館2階 ひろば2
(美浜図書館となり)

「こどもかるたあそび」をしよう!

絵本「ぐりとぐら」「ばばあちゃんシリーズ」の
かるたや千葉市の郷土かるたを使って行います



来たことのある、はじめての場所。



財団法人 四国民家博物館

〒761-0112 香川県高松市屋島中町91番地
tel. 087-843-3111 <http://www.shikokumura.or.jp/>

1/10(土)

中央図書館

5・6歳児 14:30~15:00
小学生 15:10~16:00
定員:各30人(当日先着順)

みやこ図書館

小学生 10:00~11:30
定員:30人(先着順)
12/16(火)から受付開始
来館または電話で



みやこ図書館白旗分館

小学生 10:30~11:30
定員:20人(当日先着順)

花見川図書館

小学生 10:30~11:30
定員:30人(当日先着順)